

《**課題名**》大動脈弁狭窄症に合併した冠動脈病変に対する大動脈弁置換術と冠動脈バイパス術の早期および長期成績の検討

《**研究対象者**》2002年1月1日から2014年12月31日の期間中に滋賀医科大学附属病院心臓血管外科において、大動脈弁狭窄症に対して大動脈弁置換術を受けた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報（及び生体試料）を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

研究課題名：大動脈弁狭窄症に合併した冠動脈病変に対する大動脈弁置換術と冠動脈バイパス術の早期および長期成績の検討

研究期間：滋賀医科大学学長承認日（2018年8月13日）から2022年3月31日まで

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 心臓血管外科 浅井徹

（2）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

近年本邦における高齢化と食生活の欧米化により、動脈硬化性疾患は増加傾向にあります。大動脈弁狭窄症、虚血性心疾患はともに動脈硬化を主原因とする代表的な心疾患です。どちらの疾患も今後も増加、重症化していくと予想され、これらはしばしば併存している場合があります。大動脈弁狭窄症に対する外科治療は大動脈弁置換術が最も効果的な治療法で、虚血性心疾患が併存する場合、冠動脈バイパス術を同時に併施する事がガイドラインで推奨されています。これまで、大動脈弁置換術と冠動脈バイパス術の同時手術の手術成績、長期成績に関する報告は数多く存在していますが、そのほとんどは大動脈弁置換術、冠動脈バイパス術の単独手術と比較して、死亡率、合併症率ともに高率であるとされてきました。

近年、心筋保護液や手術手技の発達により、その成績は改善傾向です。当施設においても、より安全で確実な手術手技を模索しており、今回の研究において、当施設で行う大動脈弁置換術と冠動脈バイパス術の同時手術の成績を示し、問題点を明らかにする事で今後さらなる手術成績の向上につながると考えています。

（3）研究の方法について

当科におけるデータベースと電子カルテ、紙カルテ情報を利用し、統計学的処理を行います。

（4）個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

（５）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

（７）利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、随時下記（８）にご連絡ください。

（８）問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 心臓血管外科

准教授 鈴木 友彰

住所：滋賀県大津市瀬田月輪町

窓口番号：077-548-2244（心臓血管外科 医局）

メールアドレス：suzukit@belle.shiga-med.ac.jp